

令和6年度藤井寺市地域部活動あり方検討委員会 会議録

会議の名称	令和6年度 第4回藤井寺市地域部活動あり方検討委員会
開催日時	令和7年1月31日(金) 午後5時30分から
開催場所	藤井寺市役所 3階 305会議室
出席者	<p>委員： 藤井寺市スポーツ推進委員：山根 義文 藤井寺市体育協会加盟員：瀧ヶ平 明弘 保護者代表：堂脇 友美 藤井寺市校長会：北村 敦士 藤井寺市教頭会：黒田 伸隆 中学校教員代表：中村 和昭 市民生活部協働人権課：龍見 美行 教育部教育総務課：中村 真也 教育部学校教育課：岸 廣幸 教育部生涯学習課：杉多 克一 教育部スポーツ振興課：八木 淳一</p> <p style="text-align: right;">(順不同・敬称略)</p> <p>事務局： 教育部教育監：寺田 剛 学校教育課主幹：富田 智子</p>
欠席者	0名
会議の議題	地域移行に向けて
会議の成立	委員11名中、過半数(11名)の出席があり、藤井寺市地域部活動あり方検討委員会規則の規定により成立
傍聴者	0名
会議録の作成方法	要点記録
記録内容の確認方法	会議の議長の確認を得ている
公開・非公開の別	公開

○事務局

皆さん こんにちは。

只今より、令和6年度第4回藤井寺市地域部活動あり方検討委員会を開催いたします。

開会に先立ちまして、委員の皆様方には、次の点についてご了解いただきますようお願いいたします。

本委員会について、原則公開となっており、本日の傍聴者は0人です。

次に本日の内容につきましては、議事録を作成いたしますため、録音させていただきますので、ご了承願います。

最後に、本日の委員会の内容の中で個人のプライバシーに関する内容が含まれた場合は、守秘義務も含め、適切に対応していただきますようお願いいたします。

以上のことについて、委員の皆様方には、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、これより、委員長と副委員長に司会進行していただきます。

○山根委員長

それでは、次第2「地域移行に向けて」です。

まずは今年度のアルティメット教室の報告について八木委員、お願いいたします。

○八木委員

地域部活動【アルティメット部】設立に向けて、令和6年度に実施してまいりました事業が全て終了いたしましたことをご報告いたします。

お手元の資料につきましては、全5回で実施しました「アルティメット教室」並びに昨年11月17日に実施いたしました「フライングディスク教室」の結果報告書でございます。

今後もこの普及事業を継続していくとともに、地域部活動設立という目標に向かって、粛々と進めていきたいと考えております。

○山根委員長

ありがとうございます。アルティメット教室について何かご質問等ございますでしょうか。

○岸委員

アルティメット教室から地域部活動へ移行する目途はありますか。現在どんな動きをされているのでしょうか。

○八木委員

指導者の確保が課題です。アルティメット経験者の藤井寺市役所職員を中心としてすすめていますが、藤井寺市内にアルティメットの社会人経験者もいらっしゃいます。その方にアルティメットやフライングディスク教室にも参加してもらいました。また、四天王寺大学のアルティメット部の学生が、フライングディスク教室に指

導者として来てくれ、学生も喜んでいました。発掘すれば指導できる人がいるのではないかと思うので、今年度指導者として来てくれた方には引き続き指導者としてがんばってもらいたいと思っています。

○山根委員長

ありがとうございます。アルティメット教室からアルティメットクラブ活動への移行が可能かどうかを判断する必要がありますね。指導者を確保し、地域クラブ活動を運営していくことができなければ、継続したものになりませんし、運営も基本は手弁当になると思います。そういった心意気がなければクラブチームを立ち上げることは難しいのでしょうか。

また、3中学校にない地域陸上クラブは、アルティメットよりもニーズが高く、指導者も集まりやすいと思いますが、これも最初の立ち上げに尽力していただけるような方がいないと何も始まりません。そういった地域クラブ活動が広がれば、中学校の部活動に所属する部員数も減り、合同部活動や拠点校部活動が進むことも考えられます。これら地域クラブ活動を運営したいといった方が出てくるかどうかを注視していく必要があると思います。

他にご意見はありますでしょうか？

○山根委員長

それでは、前回の委員会で、他の自治体における進捗や方針を委員会としても、事務局としても調査するとの話が北村委員から出ておりましたが、この件について、委員の皆さんや事務局から何かありますでしょうか？

○事務局

大きな自治体では、合同部活動や拠点校部活動を紹介するようなチラシを作成している自治体や部活動のあり方方針を策定している自治体などがありますが、そういった自治体においても、市内すべての学校で部活動が地域移行・展開している自治体は府内にはありません。

資料2-1は、八尾市教育委員会における部活動の新しい形を示した資料になり、令和6年11月に発行されています。モデル事業として、地域クラブ活動や合同チームの例が記載され、学校部活動から地域クラブ活動への考え方を示しております。

次に、資料2-2をご覧ください。メディアでも大きく扱われていましたが、神戸市において、2026年から部活動を地域クラブ活動への移行が示されております。内容としましては、少子化に伴い運営が困難になってきた部活動を複数の中学校で整理し、拠点校化していくこととなります。スケジュールでは、2026年9月から実施されると記載されております。

以前もお伝えしましたが、生徒数が減少し、中学校のクラス数が少なくなっている自治体や地域では、部活動の運営が困難となり、部員の新規募集停止や廃部が増えております。しかし、学校がそういった方針に踏み切った場合、生徒や保護者のハレーションは大きく、存続を求めた要望対応などで、学校が結局大変になるといった例も聞いております。

以上になります。

○山根委員長

他の自治体の資料等の情報提供が事務局からありましたが、委員の皆さんから何かご意見はありますでしょうか？

○黒田委員

バレーボール部の部活動外部指導員を市教委から派遣してもらい、3学期から指導者として活動しています。来年度からは本格的に外部指導員だけで指導できるように、また、試合の引率をしてもらえるように準備しています。部活動指導員を派遣してもらうことが一番現実的で現場としては助かっています。大学生で年も近く現役なので、運動量、レベルの高い指導をしてくれ、生徒たちも喜んでいます。

○北村副委員長

神戸市は思い切った政策ですね。教員の兼職兼業ができればいいですが、藤井寺市で可能でしょうか。

○事務局

制度的には可能ですが、市や運営主体で予算を確保しなければいけません。

○北村副委員長

バドミントン、アルティメット、剣道を地域の方と一緒にできればいいと思います。70~80名がそのクラブにいれば、ほかのクラブが拠点校にすすんでいくのではないのでしょうか。

○岸委員

教育委員会として、土日のどちらか1日と平日に1日は休養日をとること、と方針を出しています。外部のクラブチームも毎日練習しているわけではありません。今後、持続可能なものにしていかないといけないと思います。練習しすぎている部活動もあるので、部活動の活動日や時間を整理する必要があると考えています。それから合同部活動や拠点校に移行するべきではないでしょうか。

○事務局

現在、生徒数は減少してきているとはいえ、ある程度のクラブ数が確保できています。顧問も先生方でしていただき、市としては部活動指導員をつけています。学校の先生方の思いもあるので、年間を通して合同チームを作るのか、拠点校にするのか。予算的には厳しいところがあるので、外部に全部お願いできればいいですが、受け皿がないので難しいです。

兼職兼業自体は簡単ですが、労働時間等の問題を一つ一つクリアしていかなければなりません。全国的にも「地域移行」から「地域展開」に言い方がかわってきており、なかなかすすんでいない状況です。そんな中でも、子どもたちのために、先生方のためにどういう形でクラブ活動を進めて行けばいいかを検討していただけたらと思います。

○北村副委員長

子どもたちのために考えると、一度家に帰って再度出ていくよりかは、そのまま学校にいるほうがメリットだと思います。ただ教員は限界がきています。

○中村委員

いつまでにこういうことをする、準備する、と決めないといけないのではないのでしょうか。藤井寺市として地域移行をどうしていくのか、決める必要があると思います。神戸市や熊本市のような両極端の例があるが、藤井寺市はどこに針をもっていくのかを考える必要があります。予算がとれないのであればすべての学校部活動をやめてもいいかもしれません。先生方が破綻していますし、地域・民間に開放すれば何か民間の動きがあるかもしれません。

○瀧ヶ平委員

地域にそんな受け皿がないので難しいですね。

○堂脇委員

地域に行ってください、と言われても、そんな場所があるのか、全員がやりたいことをやれるのか心配です。

○北村委員

藤井寺市は立地条件がいいので、3つの中学校を拠点校としてできるのではないのでしょうか。

○堂脇委員

同じ部活動を合同ではできないのでしょうか。

○中村委員

3つの学校行事が違うのですり合わせが必要になります。人数が多いクラブだと場所の確保も大変です。

○岸委員

中体連の条件を満たさないと合同チームで試合には出れません。人数が減ってきたら、合同チームに、その後拠点校に、という流れが自然だと思います。

○事務局

生徒、保護者、地域、先生の思いがあるので、すべてのクラブを一足飛びに移行するのは難しいと考えています。

○山根委員長

これまで10回の委員会を開催してきましたが、来年度をスタートする上で、委員会としての方針をまとめる必要があると考えています。本市は、子どもの指導を引き受けてくださる地域の企業チームやスポーツ団体等が少なく、部活動の地域移行・展開は難しい状況です。現状、学校が主体となって部活動はすすめますが、可

能な範囲で外部指導部活動や合同部活動、拠点校部活動に移行していくという方針について、全委員は理解していただいていると思います。それでは、事務局より資料3の説明をお願いします。

○事務局

資料3をごらんください。これまでの協議を受けて、来年度このような形で学校に示したいと考えています。

○山根委員長

ありがとうございます。では、次回は地域部活動あり方検討委員会として、資料3を中心に方針を整理する会にしたいと思います。

続きまして、次第の3「事務連絡」についてです。

事務局をお願いします。

○事務局

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

それでは次回の日程調整をさせていただきます。

3/24(月)午後5:30からでしょうか？

それでは、3/24(月)午後5:30で開催いたします。

開催場所が決まりましたら正式なご案内を送付させていただきます。

○山根委員長

これで、本日の案件はすべて終了いたしました。これを持ちまして「令和6年度 第4回 藤井寺市地域部活動あり方検討委員会」を閉会いたします。